

地域おこし協力隊として Vol.116

世界の生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）

只見ユネスコエコパーク推進協力隊 こんどう ゆうた
近藤 友太



2024年11月現在、世界の生物圏保存地域は延べ134ヶ国・759か所となっています。2024年には韓国やスペインなどで新たに11か所が登録されました。

韓国の新規登録地「昌寧生物圏保護区」は新潟県の佐渡島と同様、絶滅の危機に瀕したトキの個体数回復に重要な役割を担っている地域となっています。その保護管理の中心となっている牛浦沼は非常に多くの絶滅危惧種や希少種の生息地で、ラムサール条約湿地にも指定されています。自然資源を活用したエコツーリズムが盛んで年間80万人が訪れる観光地となっている一方、自然環境の保全と地域住民の意識との間にギャップもあるようで、その両立に向けた取り組みの推進が期待されています。

生物圏保存地域に登録されている全759か所の総面積はオーストラリアほどの大きさになるそうです。もちろん登録された地域内でも多くの環境・経済の問題を抱えていますが、自然生態系の保全と社会経済の発展が両立された社会の実現を目指すうえで生物圏保存地域の取り組みは国際的に重要なものとなっています。同様に、2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」を目指す国際目標の達成にも大きな役割を持っています。

只見町もユネスコエコパーク登録から10年を迎えた今年、「只見町ネイチャーポジティブ宣言」を宣言しました。只見町の豊かな自然環境、脈々と受け継がれてきた自然資源の持続的な利活用、積み上げられた研究・調査、次世代を担う子どもたちへのESD教育、これらが一体となり自然生態系の保全と社会経済の発展の両立が図られるよう、取り組みを推進していければと思います。

今月のことば解説

「ハロウィン」 (表紙、P11「ハロウィン映画まつり」開催)

秋になるとテレビのCMやニュースなどで、目にしたり、耳にしたりする機会が増えた「ハロウィン」ですが、元々は海外のお祭りで、一説によるとその起源は、2000年以上昔の古代アイルランドとも言われています。ハロウィンでお化けなどの仮装をするのは、10月31日は、霊が家に戻ってくる日（日本におけるお盆のような日）とされ、霊と一緒についてきてしまった悪霊や悪魔から、子どもたちが気付かれないようにするために悪霊の仮装をしていたという説があります。現代では、国により様々な発展をしており、アメリカでは民間行事として親しまれ、家を装飾したり、パーティーをしたり仮装をしたりして楽しんでいるそうです。

日本では、アメリカから伝わった楽しみ方が影響をうけているとされており、仮装を楽しむイベントのイメージが強く、悪霊だけでなく、アニメや漫画のキャラクターに扮して楽しんでいる方が多く見られます。

